

日本語の格助詞「に」の意味領域に対応する韓国語の助詞
Particles in Korean Corresponding to the Semantic Functions of Particle *ni* in Japanese

朴 奉相¹・伊藤 美千子²・佐藤 滋³

Bong-Sang Park, Michiko Ito, and Shigeru Sato

^{1,3} 東北大学大学院国際文化研究科・² 留学生センター

Tohoku University, Sendai, 980-8576, Japan

{bongsang, michiko, sato}@insc.tohoku.ac.jp

1. はじめに

本報告では日本語の格助詞「に」の多義性を分析する目的で「に」に意味的に呼応する複数の韓国語の助詞との対応関係を求め、韓国語の助詞群がどのような形で格助詞「に」の意味領域を分割するかの検討を目的とする。

本論文の教育的な意義は、第2言語としての日本語学習者に対して意味的に分類された「に」と対応する韓国語の格助詞の形態面での一覧が可能になることである(赤羽根, 1987)。「に」とそれに対応する韓国語の *ey/eykey/ (u) lo* の意味的な対照研究は場所的な意味を持つ「に」に限定して考察を行なったものがあるが、外国語としての日本語の学習者にとって「に」の意味的用法の全体的な理解にとって必ずしも要領を得たものとなっていない。

2. 意味領域の基本分類

格助詞「に」の多義性を村木他(1984)の格情報の分類に若干の変更を加え、表1のように範疇化し、これを日本語と韓国語の格助詞の意味の対応のための基本的な意味範疇と考える。なお、表1の記号欄は村木他(1984)の用いている述語素を記号化したものである。このように「に」の意味領域を分割し、その各々の領域に対応する韓国語の格助詞を当てはめた。分析対象とした日本語の基礎資料は宮城県、茨城県、東京都の公立小学校の小学2年生から6年生まで各学年24名ずつ、計120名が4種類ずつ書いた文章全480作品である(伊藤他, 1996)。この資料から助詞「に」を含む文をすべて選び出し、韓国語の母語話者に韓国語にこれらの文を翻訳させ、日韓対応助詞データベースとした。次節にこれらのうちの642例を分析した結果とその考察を示す。なお、これらは小学生の作文という

制限があり、「に」の用法が表1のすべての意味領域を網羅していないと考えられる。日韓の対応関係の全体像を暫定的に示すため、3. では筆者による作例を一部取り入れた。

3. 用例の分析

以下に、表1の範疇に従って典型的な例文(a項)とその韓国語訳文(b項)を示す。なお、韓国語翻訳データのローマ字表記はYale方式を用いている。各例文の後のかっこ内の小数点表示は、小数点の左側の数字が学年を、右側の数字はデータ整理番号を表している。なお日本語の例文は、かな漢字表記等、作者による表記のままである。

ただし、一部この数字のない例文があるが、それらは、上述の理由による筆者の作例である。

3.1 空間的場所1 (LL1)

- (1) a. 私のおばあさんは角田に住んでいる。
(4.372)

b. halmeni-nun ccunota-ey san-ta.

- (2) a. ばくの家はどこにあるの。(4.465)

b. na-uy cip-un eti-ey/ Φ iss-na.

(2b) に示したように韓国語の場合は場所格助詞を省いても同一の意味を表すことができる。LL1を表す「に」は韓国人日本語学習者にもよく理解できるものである。

3.2 空間的場所2 (LL2)

- (3) a. ばくは本やおさいふをおきわすれた。

表1. 助詞「に」の意味機能

記号	意味
LL1	空間的場所1
LL2	空間的場所2
NL1	非空間的場所1
NL2	非空間的場所2
LG1	空間的着点1
LG2	空間的着点2
TM	時間
RA	範囲・領域
CC1	関連1
CC2	関連2
PT	相手
ES	資格
AS	起因
MT1	動機1
MT2	動機2
AT	態度の対象
NG1	非空間的着点1
NG2	非空間的着点2
PA	全体一部分の関係

(2.41)

b. na-nun chaykpang-ey cikap-ul
nohkowass-ta.

- (4) a. お金を家におきました。(3.131)
b. ton-ul cip-ey tu-ess-supnita.

3.3 非空間的場所 1 (NL1)

- (5) a. ぼくは組体そうがいちばん心にのこった。
(4.258)

b. na-nun cheyco-ga kacang maum-ey
nam-ass-ta.

- (6) a. 後世に名が残る。
b. hwusey-ey ilum-i nam-ta.

3.4 非空間的場所 2 (NL2)

- (7) a. 彼女は料理に塩を加える。
b. kunye-nun yori-ey sokum-ul neh-ta.
(8) a. 彼は将来に不安を感じている。
b. ku-nun canglay-ey pulan-ul
nukkin-ta.

3.5 空間的着点 1 (LG1)

- (9) a. 家に行きます。(4.388)
b. cip-ey/ulo kap-nita.
(10)a. 体育館に着きました。(4.252)
b. cheyyukkwon-ey/*ulo tochak-hayss-
supnita.

(9b) ではulo格も許容されるがこの場合は方向性の役割が強い。(10b)は方向性より到達点に焦点が置かれてlo/uloは許容されない。

- (11)a. 部屋に逃げる。(4.452)
b. pang-ulo/°ey talana-ta.
(12)a. 船に乗る。(4.411)

b. pay- Φ /lul/ey tha-ta.

(11b) ではlo/uloは方向性を表す助詞として使われる。ここではeyが許容されにくい(12b)ではeyとlulが許容される。

3.6 空間的着点 2 (LG2)

- (13)a. この中にふえをいれる。(4.223)
b. ian-ey phiri-lul neh-ta.

- (14)a. 両手を横に広げて。(5.626)
b. twuson-ul yeph-ulo pellyese.

(13)の用例は帰着点を意識して、ふえをいれる場所を指定している意味領域では日本語の「に」と韓国語のeyが対応する。(14)の「に」の場合はlo/uloと対応する。

3.7 時 (TM)

- (15)a. ぼくが6時に起きる。(4.404)
b. nay-ka yesesi-ey ilena-ta.
(16)a. ふゆやすみにれんしゅうしました。(1.3)
b. kyewulpanghak-ey yensup-hayss-

supnita.

3.8 範囲・領域 (RA)

- (17)a. ぼくたち白組が赤組に勝った。(4.188)
b. uripaykkwun-i hongkun-eykey
iky-ess-ta.

- (18)a. 一組に一勝してやりたいです。(3.133)
b. ilco-ey wusung-ul haycwuko-siphta.

3.9 関連 1 (CC1)

- (19)a. 足にひっかかります。(3.89)
b. pal-ey kellim-ni-ta.
(20)a. けんかにあったこともありました。(5.549)
b. ssawum-ul/*ey hanil-to iss-ess
-summita.

この意味領域の「に」と対応する韓国語はeyとul/lul, kaである。(19)は「に」とeyが対応するが(20b)の例文ではeyよりulが普通である。

3.10 関連 2 (CC2)

- (21)a. いくつものつつみににわけられました。
(4.427)
b. myechkay-uy kkwulemi-lo nanu-ess
-sumnita.

- (22)a. 家具の色を壁の色にあわせる。
b. kakusayk-ul pyeksayk-ulo/ey
macchuta.

3.11 相手 (PT)

- (23)a. 私は母に相談する。
b. na-nun emeni-wa /*ey sangtamha-ta.
(24)a. 先生にほめられたい。(2.54)
b. sensayng-nim-eykey/kke/hanthey
chingchan-patko-siphta.

- (25)a. 学生に行かせる。
b. haksayng-eykey/hanthey ka-key
ha-ta.

使役の相手を表す意味特性を持っているときは韓国語では(24b), (25b)のようにeykeyが対応する。動作の対象を意味する「に」は、韓国語では形態的な多様化が見られる。(24b) (25b)ではhanthey格も用いられる。

3.12 資格 (ES)

- (26)a. わたしはかきぞめのだいひょうににえらばれたい。(4.331)
b. na-nun seyeytayphyo-lo/ey
nakako-siphta.

- (27)a. 彼をゲストに迎える。
b. ku-lul sonnim-ulo maciha-ta.

(27)の例文ではlo/uloだけが対応する。

3.13 起因 (AS)

- (28)a. 投手は勝利に酔っている。

b. thuswu-nun sungli-lo/ey chwhihay-iss-ta.

(29)a. 勉強に苦しむ。

b. kongpwu-lo/ey komin-ha-ta.

原因を表す「に」は韓国語ではulo格で表現される。このときは(19b)と違ってey格は使いにくい。

3.14 動機1 (MT1)

(30)a. 買い物に行く。(4.387)

b. [?]cang-ey ka-ta.

b'. cang po-le/*ey ka-ta.

(31)a. 釣りに行く。

b. nakksi-Φ/*ey ka-ta.

b'. nakksi-ha-le ka-ta.

(32)a. 映画に行く。

b. yenghwa-Φ/ey ka-ta.

b'. yenghwa bo-le ka-ta.

(30) ~ (32) では日・韓両言語の対象となる名詞句の意味特性の微妙な相違が見られる。(30a)の日本語の例文は「動機1 (MT1)」を表しているが(30b)の韓国語のeyは「空間的着点1 (LG1)」の意味役割を表しうる。(31b) ~ (32b)のeyの許容度も落ちる。(31b') ~ (32b')の日本語の「に」に対応する韓国語のleは語尾として動詞に接続して意味的には動作の目的の役割を表現する。これらの日本語の用例の「映画」「泳ぎ」「釣り」は場所や方向を表す言葉ではなくて、この場合の「に」は目的を表している。韓国語の場合はeyを「映画」「泳ぎ」「釣り」に直接接続して動作の目的を表すことが難しい。

3.15 動機2 (MT2)

(33)a. 息子を修業に出す。

b. casik-ul hakep-ey nayponay-ta.

(34)a. 娘を買物にやる。

b. ttal-ul cangpo-le ponay-ta.

MT2の意味領域の(33)では日本語の「に」が韓国語のey格と対応しているが、(34)ではleと対応している。ここでeyをつけると方向性を表わす意味になって、MT2の意味領域からはずれてしまう。

3.16 態度の対象 (AT)

(35)a. 私が二つ目にがんばりたいのは夕読みです。(3.173)

b. nay-ka twupencay-lo yelsimhi hakosiph-un kess-un pamtokse-ta.

(36)a. 3学期にがんばるめあて。(4.387)

b. samhakki-ey nolyek-hal mokphyo.

態度(AT)を表すときの格の意味役割には多様化が見られる。日本語の「に」格に韓国語のey、eykey、i、lo/ulo、seが対応する。

3.17 非空間的着点1 (NG1)

(37)a. 虫菌にならない。(4.327)

b. chwungchi-ey kellici-an-ta.

b'. *chwungchi-ey toyci-an-ta.

(38)a. 体育をとくいになることです。(3.185)

b. cheyyuk-ul casin-i isskey-hanun-kess-imnita.

(39)a. 村が雪になる。

b. maul-i nwun-ulo teph-hi-ta.

b'. *maul-i nwun-ulo toy-ta.

(40)a. 2に2をたすと4になる。

b. i-ey/wa i-ul teha-myen sa-ka toy-ta.

b'. [?]i-ey/wa i-ul teha-myen sa-lo toy-ta.

(41)a. 水が凍って氷になる。

b. mul-i ele-se elum-ulo/i toy-ta.

3.18 非空間的着点2 (NG2)

(42)a. 国語の教科書に書いてあった通りに。

(3.110)

b. kwuke kyokwase-ey sseye-issnun teylo.

(43)a. 古いタオルを雑巾にする。

b. hen swuken-ul kella-lo ha-ta.

(44)a. 水を氷にかえる。

b. mul-ul elum-ulo paku-ta.

(43)の「にする」のように「に」の後に意志性のことがばきた場合は元の材料であるタオルを変化させて、作り直して雑巾として使うことを意味し、「雑巾とする」は元のタオルを直さないで、そのままの形で雑巾として使うことを意味する。

3.19 全体一部分の関係 (PA)

(45)a. 母親が息子をひざに抱く。

b. emeni-ka atul-ul mwuluph-ey an-ta.

(46)a. 妹が人形を背中におんぶする。

b. yetongsayng-i inhyeng-ul tung-ey eph-ta.

4. 考察

表2は、642個の例文からの「に」の用例の韓国語訳文における助詞の使用の意味機能別の使用頻度表である。表2では、hanthey、kkeはそれぞれey/eykeyの文体的、敬語的な異形態であるので、ey/eykeyの含めて集計した。これによれば、「に」の72%はey/eykey系助詞が対応し、「に」と類似の広範囲の格情報を担わされている。これに次いで15%の割合で文法格(主格)を表すi/kaが続き、さらに、道具格を表すlo/ulo、文法格(対格)のul/lulがあり、これらの4つの助詞で全例文の「に」の99%に対応している。このことから、「に」ほどではないが、ey/eykeyに文法格、場所格、道具格、さらに関係格などが比較

的集中する傾向が観察される。しかし、i/ka、ul/lulといった重要な文法格を担う助詞が「に」の機能を分かち合っている点も注目される。特に、意味機能の観点から見ると、非空間的着点1 (NG2) に主格 i/ka が集中し、ey/eykey 系よりも多くなっている。

5. おわりに

以上、本報告では、日本語の格助詞「に」の意味領域を19に範疇化し、小学生の作文データとその韓国語訳文を用いて、「に」の機能が韓国語助詞ではどのように分担されているかを見た。その結果、日本語では「に」のみで広い範囲の格情報を担っているのに対して、対応するべき韓国語の助詞は、ey/eykeyを中心とし、文法格の格助詞 i/ka、ul/lul、さらに lo/ulo などがあり、意味機能に対する形式の分化が見られた。

今回は、データの学年別の分析を行っていないが、助詞の意味範疇の広がりや、発達の観点から学年進行に伴って生じるのかどうか、興味のあるところであ

る。今後、日韓の小学生のデータを用いて調べる計画である。

謝辞

作文資料の収集に協力いただいた宮城県向陽台小学校の神淳子、平沢小学校の鈴木裕子、茨城県小張小学校の会沢裕之、田上寿、東京都菊川小学校の佐々木陽子の諸先生ならびに作文を書いていただいた児童の皆さんに厚く感謝申し上げます。

参考文献

- 赤羽根義章 (1987) . 格助詞「に」と「で」について－文法指導の観点から－, 日本語学 6-5, 82-94.
伊藤美千子他 (1996) . 格助詞「に、で」の習得における意味役割の発達の分化, 言語処理学会第2回年次大会予稿論文集, 429-432.
村木新次郎他 (1984) . 辞書における格情報の記述, 情報処理学会自然言語処理研究会資料 46-3, 1-8.

表2. 助詞「に」に対応する韓国語助詞の意味機能分布

韓国語 助詞 意味機能	ey/eykey kke/hanthey	i/ka	lo/ulo	ul/lul	le/ule	se	計
LL1	17	0	0	0	0	0	17
LL2	4	0	0	0	0	0	4
NL1	1	0	0	0	0	0	1
NL2	0	0	0	0	0	0	0
LG1	168	0	5	8	2	0	183
LG2	15	1	1	1	0	0	18
TM	94	0	0	0	0	0	94
RA	7	0	2	0	0	0	9
CC1	4	1	2	6	0	0	13
CC2	0	0	1	0	0	0	1
PT	87	0	2	0	0	0	89
ES	0	3	3	0	0	0	6
AS	1	0	0	0	0	0	1
MT1	4	0	2	0	0	1	7
MT2	0	0	2	0	0	0	2
AT	21	2	5	1	0	1	30
NG1	25	91	25	9	0	0	150
NG2	14	0	0	3	0	0	17
PA	0	0	0	0	0	0	0
計	462	98	50	28	2	2	642
(%)	(72.0)	(15.2)	(7.8)	(4.4)	(0.3)	(0.3)	(100.0)